来するまで待機して、あたかも殿軍の役目を果たすかのような行動をとつたことの2項であつた。

(京都市北保健所)

ドクガ毒針毛形成の形態学: 朝比奈正二郎・堤千里
Asahina, S. & Tsutsumi, C.: Morphological observations on the urticating spicule formation of the larva of *Euproctis flava* Bremer

Euproctis 属のドクガ幼虫に於ける毒針毛の形成については, Eltringham, Tyzzer, Kephart, Gilmer, Pawlowsky & Stein, Weve, Tonkes, Weidner, 森下等の研究があるが, 充分なものはまだない様に思われる。吾々はドクガ (*Euproctis flava* Bremer) を用いて, この構造とその形態の推移を一応昆虫類の皮膚組織の基礎概念に基いて説明したいと試みた。観察の基礎として, 摂食中の中齢幼虫を用い, 1組の毒針毛(2~13本, 通常7~9本)と, その下の1個のカップ, それに接した表皮及び内皮, その下部に位置する直径約6 μ の核を有するほぼ円形の細胞(上層細胞), その下にある1個の大形(核の長径18 μ , 短径8 μ)の細胞(中層細胞), 及び下層の細長く多数あるが如く見える細胞(核の長径18 μ , 短径5 μ)を考える。この様な3層の細胞より成る構造を1単位として, 幼虫の脱皮に際してのこれらの各部分の形状の推移を追跡観察し, 結論として, これらが昆虫体皮の1個の macrotrichia (剛毛) の各部分に相同することを見た。即ち, 上層細胞は真皮細胞 (epidermal cell), 中層細胞は毛窩細胞 (tormogen cell) 或いは造膜細胞 (membrane cell), 下層細胞は生毛細胞 (trichogen cell) である。

(予研・衛生昆虫)

カミキリモドキ類による皮膚炎とその有毒物質について: 黒佐和義 Kurosa, K.: On the dermatitis caused by Oedemerid beetles and their toxic substance

カミキリモドキ科 Oedemeridae に属する甲虫には夜間灯火をめがけて家屋内に飛来するものが多く, 従つて人体に接触する機会が多いのであるが, その際1種の毒液を分泌して著しい水疱性皮膚炎を惹起するものがあることが知られている。演者は従来報告のない二, 三種による被害例を知り得たので, カミキリモドキ科全般に亘つて調査したところ, 他にも多数の有毒種のあることを見出した。またこの毒物が化学的に如何なる物質であるか, まだ確定されていないので, 実験を行いカンタリ

ジンであることを証明し得た。さらに皮膚炎の実験的及び臨床的観察を試みた結果, 多くの新知見を得たので報告する。

(伝研・寄生虫)

ゴキブリの研究 (第6報): 藤田裕 Fujita, H.: Studies on the cockroach (Rep. 6)

クロゴキブリの孵化について, 特に卵鞘, 卵, 孵化に要する日数及び孵化率についての知見を報告する。卵鞘の大きさは, 卵鞘36個をノギスにより測定すると長さ14.3~9.9 mm (平均12.30 mm), 幅5.9~4.8 mm (平均5.53 mm), 厚さ3.5~2.8 mm (平均3.07 mm) である。卵鞘の産下当初の重さは, 卵鞘20個を化学天秤により測定すると154.9~98.4 mg (平均131.02 mg) である。卵鞘は産下後, 日数の経過と共に重さを減ずるが, 卵鞘7個を用いて化学天秤により変化を追求すると, 第15日には産下当初の重さの5~11%, 第35日には18~38%の減少率を示す。卵の大きさは, 卵16個をノギスにより測定すると長さ4.4~3.9 mm (平均4.10 mm), 幅1.6~1.0 mm (平均1.37 mm), 厚さ1.2~0.8 mm (平均1.04 mm) である。1卵鞘中に存在する卵の数は, 卵鞘90個を用いて算定すると15~28個 (平均24個) で24個, 26個が多い。孵化に要する日数は, 5月 (平均室温23.0~18.7°C) より10月 (平均室温20.3~16.6°C) の室温では23~66日 (平均39.5日) で, 室温での孵化期間には相当の変動があるが, 25°C 恒温では40~45日 (平均42日) でほぼ一定している。これより, クロゴキブリの卵は一定温度ではほぼ一定の期間で孵化するが, 温度の変動によつてその期間も影響されることが分る。1卵鞘より孵化する幼虫の数は, 7~27匹 (平均22匹) で24匹, 25匹, 26匹が比較的多い。又, 1卵鞘よりの孵化率は29~100% (平均90%) で, 100%の孵化は全体の33%である。

(京府医大・医動物)

防疫用殺虫剤の残効性に関する研究 (III) ゴキブリ駆除における残留性殺虫剤の適用法と効果との関係: 井上義郷 Inoue, Y.: Studies on the residual effect of sanitary insecticides (III) Relationship between the applied technique of residual insecticides in the cockroach control and the efficiency

ゴキブリは家住性且つ夜間活動性の昆虫である。した